

INFECTION CONTROL

～院内感染防止対策を熟考する～

- Key Word
1. 医療法に基づいた医療安全
 2. スタンダードプリコーション
 3. コストの削減と捻出

先日、医院の老朽化のため建て替えをしました。設計にあたっては、訪問診療の拠点となる、院内感染防止対策、この二つをコンセプトとして歯科医院創りを行いました。今回、院内感染防止対策について発表させていただきます。

昨今、メディアにより、世間の歯科医院を見る目はとても厳しくなり、診療技術はもとより、この対策をやっていて当たり前という時代となっていきます。

どのようなところに気を配って設計したか、感染の勉強をするにあたって、あらためて知り得たこと、そして、現状とのギャップなどをお話致します。

このような機器を備えていますということではなく、スタンダードプリコーションの概念のもと、医療法に基づいた医療安全を目指しました。

感染経路の予防策として、診療室と滅菌ルームは、人の動線だけでなく、器具の動線まで考慮して設計しました。

感染対策の基本として、手指衛生、洗浄・消毒・滅菌を徹底させました。針刺し切創対策や医療廃棄物の管理、そして、スタッフ教育、患者へのアピールなどのマネジメントを行いました。

そして、最も肝心なコストの問題。

院内感染防止対策はスタッフと患者さんの安全と健康を守るためになくはならないものです。

歯科医院においては、それぞれの医院のスタイルに合った工夫をし、コスト削減を考えながらの取り組みが必要です。経営が良好であることが重要な条件で、あくまで、その上で、どこまで可能であるかを追求していきます。

また、医院の状況によって優先順位は異なります。細かくシステムを見直していくことが必要です。

滅菌レベルをもっと上げるために、業績を上げ、そのためのコストを捻出していくことが大切です。それには、スタッフ全員での取り組みが必須となります。

諸先生方のご指導、よろしくお願いいたします。